

落葉・刈り草・ガーデニング残渣・剪定枝も有効活用



落葉・剪定枝チップと生ごみを混ぜて堆肥化するとバランス（C/N比＝炭素/窒素比）のとれた、良い堆肥ができます

焼却にまわすのはモッタイナイ！

- (1) 庭、菜園、市民農園、公園、学校、集合住宅の緑地などで、一角にコーナーを設け、堆肥化を。「なんでも回収ネット」を使う方法だと省力化できる。



参照：当HP 「県内の活動紹介」の「団地での堆肥づくり」

- (2) 剪定枝はチップ化する。
車に積んだまま、移動でき、公園など現地に運んでチップ化する機械もある。
家庭用ガーデンシュレッダーもあります。



- (3) チップ化はカッターで単純に細かく切る形ではなく、すりこぎでつぶすような、繊維がほぐれやすい形だと早く、順調に発酵する

参照：当HP 「県内の活動紹介」の「志木市 大村商事」

- (4) 公園などで使い切れない落葉は、異物が入らないようにポリ袋に入れて希望者に渡す方法をとる。



庭がなくてもプランター1個からできる 落葉を使った無農薬栽培

小宮山（洋夫なみお）さんの方式

小宮山さんは、都心の屋上で、20年以上、落葉と油粕と少量の土だけで、60種類以上の野菜を作ってきたそうです。



この方式のメリット

- ① 落葉を焼却しないで、利用したい場合、堆肥にする場所がなくても、植木鉢やプランター1個から、その人の条件に合わせて少量から利用できる。
- ② 植木鉢やプランターで、栽培しようというとき、必要となる土が、半分で済むので経済的であり、土よりかなり軽いので、ベランダにも置きやすく、持ち運びもラク。

* 生ごみ堆肥との組み合わせで、さらにごみ減量となる。

ノウハウ

- (1) 落葉は針葉樹とイチヨウの葉以外ならなんでも使える。
秋に落ちた葉をそのまま利用する。落葉には微生物がたくさん生息している。
- (2) プランター、植木鉢などに、油粕か生ごみ堆肥を少量ずつ混ぜながら落葉をギッシリ詰める。ギュウギュウ詰めるとかなりの量が入る。
- (3) 黒土を一番上に3~4センチのせる。
- (4) すぐ、種を蒔くか、苗を植える。(しばらく寝かせておくのも良い)

家庭菜園の達人・小宮山さんの本

「図解 おいしい家庭菜園 コツのコツ」 小宮山洋夫著

小学館 2000年4月発行 1575円

その他、子供向け絵本など各種発行されています。

* くわしくは、埼玉エコ・リサイクル連絡会 資源循環委員会へお問い合わせください。